

# ESC 情報 春季号

## 新年度開始に当たりご挨拶申し上げます

4月になりました。当社も2名の新たな仲間が加わり、無事に入社式を執り行う事ができました。2名の内訳は、1名が技術職の大卒新人、もう1名が営業事務の中途採用となります。二人とも早く新しい環境に慣れ、1日でも早く戦力となれるよう努力することを期待しています。

また、3月末で定年退職を迎えた社員も2名おりますが、いずれも嘱託社員として継続勤務となっております。会社の発展のために若手技術者への教育を含め能力を発揮してくれることを切に願います。

一人一人が真剣に仕事に取り組むことで、人は成長し、また仕事に対する面白みを見出すこともでき、仲間やお客様からの信頼も増し、結果として会社も成長していきます。片や適当に仕事をしていると、遣り甲斐は見つからず成長もせず、仲間や上司からもあまり重要な部分を任せられず、悪循環に陥っていくこととなります。そのような人が多い会社は活気が無く、お客様からも良い印象を持たれず、徐々に受注も減っていき、会社の存続が危うくなるかもしれません。一人一人が真剣に業務に取り組み、お客様からの信頼を高める努力をしていきましょう。

弊社は4月7日で創業51年目に入ります。これまでの50年を礎に、新たな50年に向けてのスタートとなります。これまで通り北海道電力様及びそのグループ会社様に軸足を置いて事業を行っていくことに変わりはありません。しかし、世の中の変化が大きな時代の中で、一步先を見据えて様々な提案を行い、安全、効率化そして品質向上に貢献できるよう、営業、技術など全部門が一丸となり、取り組んでまいります。

電力業界を取り巻く環境は、2050年のカーボンニュートラルに向け大きく変化することが予想されます。我々も新たな技術で貢献できるよう社内の仲間及びお客様とも議論を行い、より良い製品、技術、サービスを継続して提供していけるよう日々研鑽を続けます。

コロナ禍で何かと制約が多い2020年度でしたが、2021年度もまだしばらくこの状況は継続しそうな状況です。一人一人が普段の生活でも感染防止に努め、お客様にご迷惑をおかけしないこと、また、業務においても不安全行動をなくし、安全や品質に十分注意を払い安心して利用していただける製品やサービスを提供し続けていくよう努めてまいります。

今後とも北海道電気技術サービスをどうぞ宜しくお願い申し上げます。



代表取締役 向井 潔



## 創業50周年の節を迎えて

今年4月で創業満50年を迎える事が出来ました。

創業時は私も若く、社員も若く希望に燃えて頑張りました。はじめは一階が住宅で二階が事務所の借家でスタートしましたが事務用品が不足なだけで無く、資料も機材も、そして資金も不足で無い無い尽くしの発足でした。

車は中古のライトバンが一台。事務所と言っても中心街は高いので郊外の宮の森で。それまでは北海道電力の従業員、電気技術者として15年間勤務していたので事業の経営経験は皆無。全てが手探りの状況でした。



相談役 向井 隆

しかし、昔の先輩や同僚、後輩の皆様のご支援で仕事も頂き、小人数での作業もしながら何時もやっとの思いで月末を過ごしました。50年の内には赤字になり、経営の危機もありました。知人、先輩の指導を受けながらやっとの思いで年末を越したことも有ります。今となってはとても大切な思い出と経験になりました。

新聞を見ていると大儲けをして得意げに記事に載っている人もいますがそれは希な事で大多数の人は新聞やTVの話題にならず平々凡々な暮らしをしています。それが当たり前で正常、幸福であると思います。

弊社も50年、良いお客様と社員に恵まれてやっとな普通の会社、幸福に過ごすことが出来る軌道に乗りました。

しかし、安心は禁物です。いつ軌道を外れて事故に遭うとも限りません。日頃十分注意して、周辺をよく見て慢心することなく、日常の仕事を大切に仕上げて社会の一員として感謝しながら過ごしたいものです。有り難う御座いました。感謝。



1971～1973年（札幌市中央区宮の森）

創業当初。徐々に仕事も増え2年後に篠路に移転。



1976～2011年（南幌町）

発展期を支えた社屋。多くのお客様にも御来社いただきました。



2011年～（江別市西野幌）

現社屋。おかげさまで多くの製品を  
出荷させていただいております。  
これからもよろしくお願いたします。

ESC社屋 50年のあゆみ

## 編集後記

「会社を取り巻く環境変化」という文言は、十数年前から使われており時間の経過とともに刻一刻と変わるが、この変化を見落としついでいなければ会社は簡単に衰退する。

当然ながら、会社を取り巻く環境変化を目の前にして「今のままで良い」という考えも成立しない。

進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭の良いものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」という考えを示している。非常に考え深く、現実と向き合うと改めて感じるものがある。

求められているものが変わっているにも関わらず、提供するものが変わっていないという、極めてリスクな事業は冷静に考えればどうすべきか判断できそうなものだが、環境の変化に対応できない中小企業は決して少なくないとメディアは報じている。

会社を取り巻く環境変化に応じて「守るべきものと変えるべきもの」を瞬時に判断し変化に対応する「力」は、会社の成長に欠かせない従業員一人ひとりが持つべき必須スキルである。

事業構造の再構築、お客さま志向、付加価値の創造、商品提供の仕組み再構築、販売戦略の発想の転換など、会社の成長発展に欠かせない取組みのほとんどは、会社を取り巻く環境変化に対応する「力」で成長が決まる。

ブルーオーシャンと思いき船出したが、いつのまにかレッドオーシャンに環境は変化し、当然ながら業績に表れた些細な危険サインを見落とすと最悪な事態を招くことは言うまでもない。先手先手で環境変化を正しく捉え柔軟に対処していくことが、その先の弊社の更なる50年を目指す原動力となるのではないかと考える。

自戒を込め取り組まなくてはならない一丁目一番地の課題を再認識する今日この頃である。

総務部 中村 嘉孝

**ESC** 情報NO. 157 春季号



発行所 北海道電気技術サービス株式会社

〒069-0832

北海道江別市西野幌 120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp>/e-mail:hesc@hesc.co.jp

発行者 向井 隆

編集者 総務部